各　位

立教大学入学センター

問題の訂正について

（2026 年度 A 数学）

2026 年度 A 数学について、下記の通り訂正いたします。

記

＜訂正箇所・内容＞

２ページ　設問Ⅰ－（ⅴ）

当該設問については、与えられた条件設定に不適切な部分がありました。

誤：平面上の 3 点 O，A，B は，OA= 3，$\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OB}=2$ を満たす。

正：平面上の 3 点 O，A，B は，OA= 3，$\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OB}=2$ を満たし、同一直線上にないとする。

＜備考＞

上記の訂正内容は、試験終了後に発覚しました。そのため、文中の空欄 $\boxed{\text{オ}}$ ・ $\boxed{\text{カ}}$ については、解答の有無・内容にかかわらず、全ての受験者に得点を与えることといたします。

以上

2026年度

A　数　学　問　題

注　意

1．試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2．解答用紙はすべて**黒鉛筆または黒芯のシャープペンシル**で記入することになっています。黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3．この問題冊子は**8ページ**までとなっています。試験開始後，ただちにページ数を確認してください。なお，問題番号はⅠ～Ⅲとなっています。
4．解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので，出席票の受験番号が，あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し，出席票の氏名欄に**氏名**のみを記入してください。なお，出席票は切り離さないでください。
5．解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し，その他の部分には何も書いてはいけません。
6．解答用紙を折り曲げたり，破ったり，傷つけたりしないように注意してください。
7．計算には，この問題冊子の余白部分を使ってください。
8．この問題冊子は持ち帰ってください。

Ⅰ．下記の空欄ア～キにあてはまる数または式を解答用紙の所定欄に記入せよ。

（ⅰ）a を正の定数とする。直線 $y = -x$ が円 $x^2 + y^2 + 4ax = 0$ によって切り取られてできる線分の長さが 2 であるとき，$a = \boxed{\text{ア}}$ である。

（ⅱ）実数 θ が $\sin\theta + \cos\theta = \dfrac{1}{2}$ を満たすとき，$\dfrac{1}{\sin\theta} + \dfrac{1}{\cos\theta}$ の値は $\boxed{\text{イ}}$ である。

（ⅲ）不等式 $|x - 1| < x^2 + x + 1$ を満たす実数 x の範囲は $\boxed{\text{ウ}}$ である。

（ⅳ）$\left(\dfrac{1}{5}\right)^{40}$ を小数で表したとき，小数第 $\boxed{\text{エ}}$ 位に初めて 0 でない数字が現れる。ただし，$\log_{10} 5 = 0.6990$ とする。

（ⅴ）平面上の 3 点O，A，Bは $\mathrm{OA} = 3$，$\overrightarrow{\mathrm{OA}} \cdot \overrightarrow{\mathrm{OB}} = 2$ を満たす。また，直線OAに関してBと対称な点をCとする。$\overrightarrow{\mathrm{OC}}$ を $\overrightarrow{\mathrm{OC}} = p\overrightarrow{\mathrm{OA}} + q\overrightarrow{\mathrm{OB}}$ と表すとき，実数 p，q の値はそれぞれ $p = \boxed{\text{オ}}$，$q = \boxed{\text{カ}}$ である。

（ⅵ）白玉 7 個，赤玉 4 個の合計 11 個の玉を横一列に並べるとき，赤玉がとなり合わない確率は $\boxed{\text{キ}}$ である。

Ⅱ. a を実数とする。実数全体を定義域とする x の2次関数 $f(x)$ を

$$f(x) = x^2 + 4ax - 8x - a^3 + 7a^2 - 7a + 21$$

で定める。$f(x)$ の最小値を m とする。次の問(ⅰ)〜(ⅴ)に答えよ。解答欄には，(ⅱ)については答えのみを，(ⅰ)，(ⅲ)〜(ⅴ)については答えだけでなく途中経過も書くこと。

(ⅰ) $f(x)$ が最小となる x の値を a を用いて表せ。

(ⅱ) m を a を用いて表せ。

(ⅲ) $m = 0$ となる a の値をすべて求めよ。

(ⅳ) (ⅱ)より m は a の関数である。この関数を $m = g(a)$ と表す。a がすべての実数を動くとき，$g(a)$ の極値を求めよ。また，そのときの a の値を求めよ。

(ⅴ) a が $-2 \leqq a \leqq 6$ の範囲を動くとき，(ⅳ)の $g(a)$ の最大値と最小値を求めよ。また，そのときの a の値をそれぞれ求めよ。

Ⅲ. 次の条件によって定められる2つの数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ と x の多項式

$F_n(x)$ $(n=1, 2, 3, \cdots)$ がある。

- $a_1=2$, $b_1=0$
- $F_n(x)=\displaystyle\int_0^x (a_n t+b_n)\,dt$ $(n=1, 2, 3, \cdots)$
- すべての自然数 n に対して, $a_{n+1}x+b_{n+1}$ は $F_n(x)$ を x^2-3x+1 で割った余りに等しい。

このとき, 次の問(ⅰ)～(ⅵ)に答えよ。解答欄には, (ⅱ)については答えのみを, (ⅰ), (ⅲ)～(ⅵ)については答えだけでなく途中経過も書くこと。

(ⅰ) $F_n(x)$ を a_n, b_n を用いた x の式で表せ。

(ⅱ) a_2 と b_2 を求めよ。

(ⅲ) a_{n+1} および b_{n+1} を a_n, b_n を用いてそれぞれ表せ。

(ⅳ) すべての自然数 n に対して $c_n=a_n+b_n$ とおく。c_{n+1} を c_n を用いて表せ。

(ⅴ) すべての自然数 n に対して $d_n=a_n+2b_n$ とおく。d_{n+1} を d_n を用いて表せ。

(ⅵ) $\{a_n\}$ の一般項を求めよ。

【以下余白】